

第34回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成16年12月20日(月) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表(15:00～15:40)

・古田 均 総合情報学部教授

発表テーマ「社会インフラ(社会資本)の

維持管理のための新しい試み」資料1

・齋藤 栄二 外国語教育研究機構教授

発表テーマ「優れた英語教師を育成する

ー英語の授業レベルアップのための体制づくりー」資料2

(2) 質疑応答(15:40～16:00)

(3) 学内状況説明・情報交換(16:00～16:30)

- ① 台風第23号並びに新潟中越地震における被災学生及び受験生に対する授業料等の減免措置について 資料3、4
- ② 寄附講座「マロニエ提供ファッション学」の開催について 資料5
- ③ 第1回関西大学現代GPシンポジウムの開催について 資料6
- ④ 第9回先端科学技術シンポジウムの開催について 資料7
- ⑤ 特別公開講座「関西中小企業の活性化と経営革新セミナー」の開催について 資料8

4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 斉副学長、広兼道幸学長補佐、品川哲彦学長補佐、
古田 均総合情報学部教授、齋藤栄二外国語教育研究機構教授、藤本清高広報課長

5 参考資料

- (1) 平成15年度学生生活実態調査報告書
- (2) 関西大学FDフォーラム vol.8
- (3) 先端機構ニュース vol.30 No.3
- (4) エクステンション・リードセンター 講座案内 2005
- (5) 羽間コレクション(博物館)

以 上

社会インフラ（社会資本）の 維持管理のための新しい試み

総合情報学部教授 古田 均

持続性ある社会の発展を実現するには、社会基盤施設、いわゆる社会インフラの維持管理を合理的かつ適切に行うことが必要である。現在、全世界でこの維持管理が焦眉の問題となっている。多くの道路、橋梁、建築物、ダム等の耐用年数が近づいており、どのように安全かつ経済的に保全していくかは緊急かつ急務の課題である。

本研究では、画像処理、ヘルスマonitoring、ソフトコンピューティング等の先進技術並びにIT技術を応用して、ライフサイクルコストの考え方を基礎に新しい総合的な方法論を開発し、現実問題に適用可能な実用的な維持管理システムの開発を、米国、ドイツ、スイス、スペイン等の研究機関の協力のもとに行う。最終的には、ハード、ソフトの先端技術を統合し、種々の災害に対して適応可能なシナリオ、最適政策、具体システムの構築を試みる。なお、基本データは国、地方自治体が提供してくれる予定である。

【プロフィール】

1948年に滋賀県彦根市に生まれ、滋賀県立彦根東高校を卒業し、67年4月京都大学工学部土木工学科に入学、71年卒業、73年、76年それぞれ京都大学大学院修士課程、博士課程を修了。71年より京都大学工学部助手になり、その後講師、助教授を経て、94年総合情報学部創設に伴い、関西大学に教授として赴任した。その間、米国のパデュー大学とプリンストン大学に客員助教授、客員研究員として滞在し、コロラド大学に在外研究で滞在した。専門はソフトコンピューティング（ファジィ理論、ニューラルネットワーク理論、遺伝的アルゴリズム等）の工学問題への応用であり、現在、構造物の景観評価やライフサイクルコスト評価に興味を持っている。

趣味は、下手なゴルフと音楽鑑賞(ただしjazzが好き)。酒を飲みながら、若い人と雑談をするのが好き。雰囲気と容貌から職業が当たったことは皆無。研究のモットーは人と同じことをせず、新しいことをする。

優れた英語教師を育成する

ー 英語の授業レベルアップのための体制づくりー

外国語教育研究機構教授 齋藤 栄 二

英語の優れたコミュニケーション能力を身につけた人間を育てることは、緊急の課題になっている。こういった状況の中において、英語教師の指導力の改善が重要であるという認識のもとに対策を講じてきた。また、近い将来に向けての対策をたてつつある。

今回はその具体例の一つである関西大学大学院外国語教育学研究科と京都市立御池中学校との連携を紹介すると同時に、教師のレベルアップのための施策について述べる。内容としては英語教師の授業改善カウンセリング、地域学校との連携、指導的な立場にいる英語教員のためのレベルアップ講座の開設、などである。

日本の将来を担う若者のコミュニケーション能力の養成について行ってきたこと、またこれから実施することについて具体的に触れていきたい。

【プロフィール】

専門の研究分野は英語授業実践学。40年以上にわたり中学校・高等学校の英語の授業の改善に力を尽くす。社会に対する発言も多い(「英語教育に現場の声を」読売新聞、2001年8月23日朝刊、「学習者の意思で選択させる視点を」聖教新聞、2002年9月5日朝刊、朝日現代用語知恵蔵別冊付録2001年版現代日本人名録キーパーソン所載等)。

年間40回から50回にわたり全国の中学校・高等学校の英語授業の教室室を訪れ、授業改善の助言を行う。英語授業改善カウンセラーとしての仕事をこなす。

最近に関西大学大学院外国語教育学研究科長として、英語授業改善のための具体的なプランの立案にチームを組んで当たっている。